

● UP-200 はインパルス方式のシーラーです

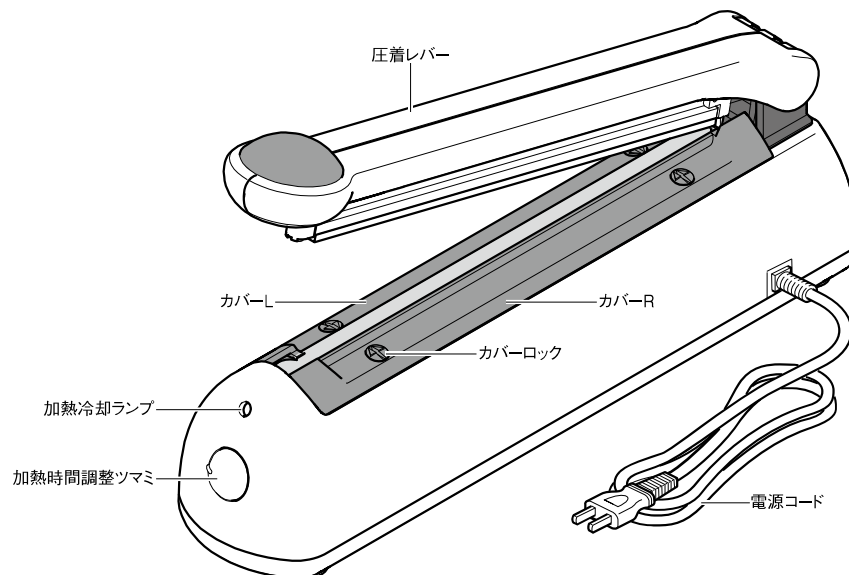
電源プラグをコンセントに差し込んで時間が経過してもシール部が熱くならないのは故障ではありません。

UP-200 はインパルス方式のヒートシーラーですので電源プラグをコンセントに差し込んだだけではシール部は熱くなりません。加熱工程の時だけ（レバーを押し下げてマイクロスイッチが ON になった時だけ）瞬間的に通電し加熱されるからです。但し、長時間の連続使用で、シール部が蓄熱して熱くなる場合があります。

● 異常加熱に対する安全装置

加熱タイマーの故障で異常加熱（連続通電）状態になっても約 3 秒で回路を遮断する装置が組み込まれています。異常を感じたら「10 主な故障状況と対処方法」（→ P.22）に記載されている修理・処置方法を参照して、修理を依頼してください。

7 各部の名称

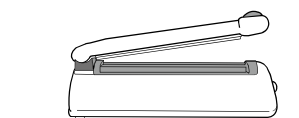


8 正しい使い方

製品を使用される時は以下の『正しい使い方』をよくお読みいただき、お使いください。
以下の方法以外の操作方法で使用されますと故障の原因となり、たいへん危険です。

8-1 本体の設置

製品本体を水平な面を持つ適切な作業台の上に設置してください。

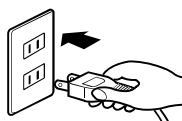


⚠ 注意 電源コードに衝撃がかからない場所に設置してください。UP-200 は軽量ですので、コードに足などが引っかかると、製品ごと落下する恐れがあります。



8-2 電源コードの接続

電源コードの差し込みプラグを「1 仕様」(→ P.5) に記載している電圧・電力が確保できるコンセントに確実に根元まで差し込んでください。



⚠ 警告 規定の容量に合わない場合、火災などの危険があります。

8-3 タイマーでシール条件を設定する

タイマーで加熱時間を設定します。袋（フィルム）の材質、厚さなどにより設定値は変わりますので、フィルムを変えられた時はその都度、設定してください。

■ 加熱時間の設定

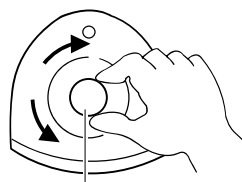
加熱時間調整ツミを回して設定します。目盛を大きくすると加熱時間が長くなります。

（約 0.1 ～ 2.1 秒の範囲）

使用されるフィルム（袋）の材質により加熱時間は異なります。

目盛りの小さい方からシール状態を確認して、シールができる最小の目盛りに設定してください。作業速度が上がり、部品の無駄な消耗を抑えます。

 **警告** 加熱目盛を大きくして“正しい使い方”の「8-5 冷却時間をとる」で説明する冷却時間をとらないで連続使用すると、火災などの危険があります。



加熱時間調整ツミ

8-4 袋をセットし、シールする

シール部に袋をのせ、圧着レバーを押し下げます。押し下げている途中でマイクロスイッチが ON になり、加熱冷却ランプが赤色に点灯します。

【圧着レバーを押し下げるときの注意点】

圧着レバーを押し下げると、マイクロスイッチが ON になりカチッと音がします。マイクロスイッチが ON になる位置よりもさらに下のレバーが止まる位置まで少し強く押し下げてください。

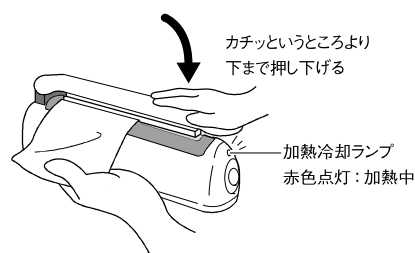
注！ マイクロスイッチが ON になる位置でレバーを止めた場合、手前側（加熱ランプ側）の圧力が弱くなるためシールがきちんと出来なかったり、シール強度が弱くなったりする場合があります。

注！ レバーが止まる位置よりも無理やり強く押し下げると、圧着レバーの耐久性が落ち故障の原因となります。無理に強く押し込んでも滅菌バッグのシール強度は上がりません。

△ 注意 ヒーター部に内容物がこないように袋をセットしてください。圧着レバーで内容物を挟んでしまった場合、ヒーター等が破損してしまう恐れがあります。

注！ 滅菌バッグをシールする場合、フィルム側を上にしてください。

注！ この時、袋がピンと張られた状態でないとシール線の上にシワができますので注意してください。

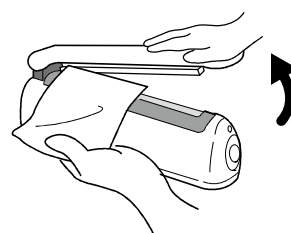
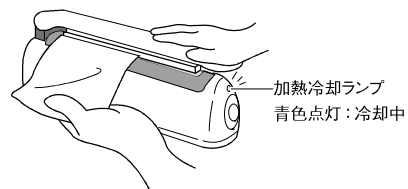


8-5 冷却時間をとる

加熱が終了すると加熱冷却ランプが青い色に点灯します。

MEMO 青色の点灯時間(冷却時間)は、設定した加熱時間の2倍の時間になります。

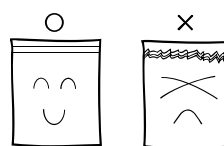
加熱冷却ランプの青色が消灯し、ビップブザーが鳴ると冷却終了です。圧着レバーを上げてください。



8-6 シールのできあがり

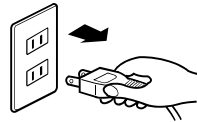
加熱・冷却終了後、圧着レバーを上げれば、シール完了です。うまくシールができていない場合は再度、加熱の設定や圧着レバーを押さえる力を調整してください。

MEMO UP-200 の加圧力は、手で圧着レバーを押さえる力の強弱で調整します。



8-7 作業終了後の点検

作業を終了する時や長時間使用されない時は電源プラグをコンセントから抜いてください。
作業が終了したら、ヒーターや、ガラステープなどの消耗部品に汚れや破損がないか点検してください。



汚れがある場合は清掃を行ってください。
破損がある場合は、取扱説明書に記載されている「9 消耗部品の交換方法」(→ P.17)をよくお読みいただき、部品の交換を行ってください。